

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 24 年 7 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 24 年 4 月～6 月期の実績および平成 24 年 7 月～9 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	20 社	66.7%
水産業部会	30 社	16 社	53.3%
機械工業部会	30 社	21 社	70.0%
建設業部会	30 社	19 社	63.3%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	23 社	76.7%
合 計	150 社	99 件	66.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況は横ばい次期も横ばい見込み－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成24年4月～6月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△27.2**と前回調査時の△29.7より**2.5ポイントのプラス**となりました。業況指数は前年同期比指数で改善されない傾向であり、依然として市内経済を取り巻く経営環境は厳しい状況にあることが再確認されます。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業 [前年DI値△26.3→今期△55.0]、水産業 [前年DI値△42.9→今期**6.3**]、機械工業 [前年DI値△44.4→今期△42.9]、建設業 [前年DI値△37.5→今期△36.8]、観光・サービス・諸業 [前年DI値△47.8→今期△4.3] となりました。年度明けの第1四半期目に商業食品業が悪化、大震災後の前年同期比判断でも業況回復していないことがわかります。機械工業・建設業はほぼ横ばいの業況指数でした。一方、観光・サービス・諸業が大震災後の業況と比較すると回復しつつある傾向になっています。また水産業は大幅なプラス回復であり、昨年同期に比べると底曳き・底建ての漁が好調だったという新聞報道もあり、回復したのではないかと思います。

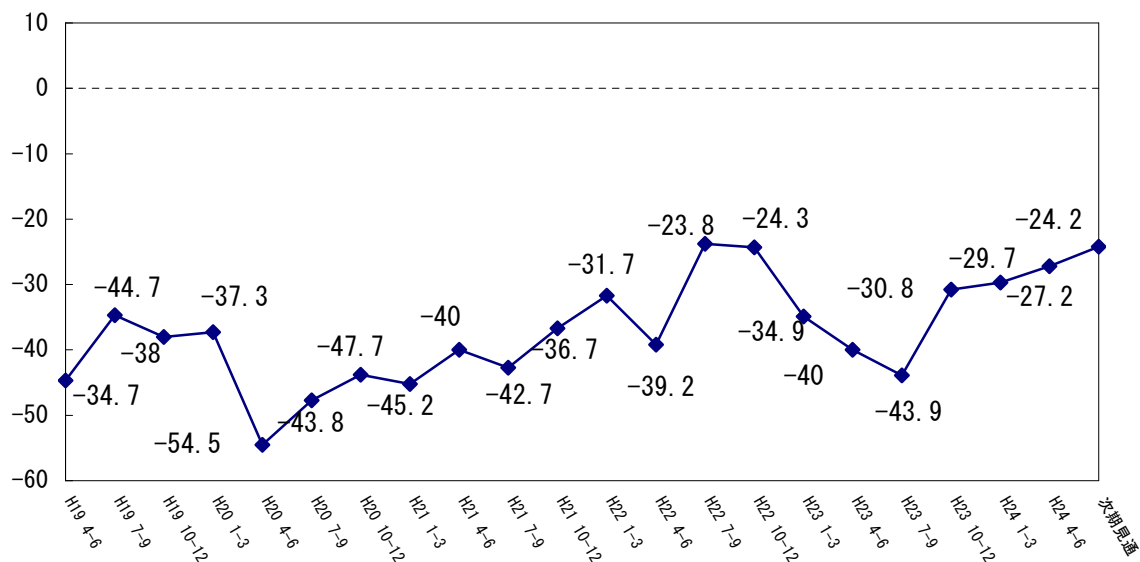
全体の業況は、グラフを見ると回復傾向の兆しが若干見受けられるも、今後の指数の状況については横ばい状態が続き、見通しのつかないところです。

来期(平成24年7月～9月)については、全体では今期と比べて**業況判断DIが3.0ポイント改善**するとの予測となっていますが、全体的な業況の状況は横ばいで変わらないとの見方ができています。ただし、本格的な漁期を迎える水産業が大幅な回復傾向で予測しております。

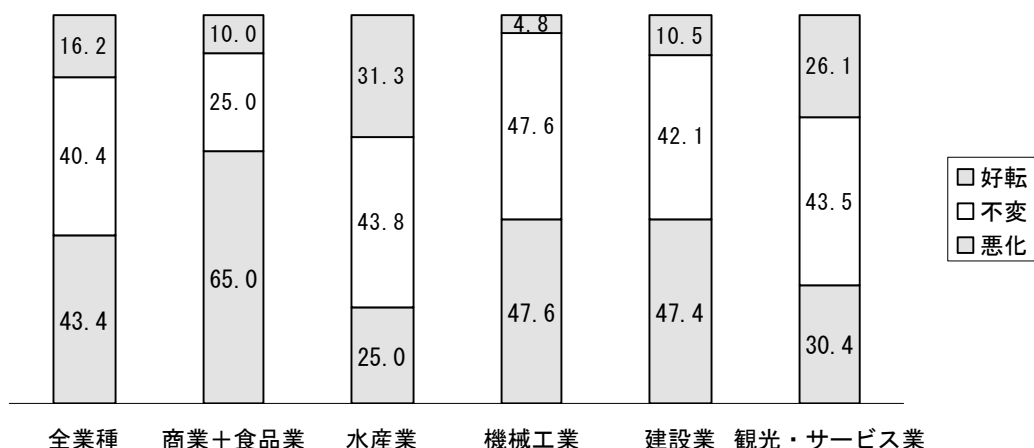
業況推移

(全業種平均D・I)

(好転－悪化)



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、全体的に需要の停滞と原材料等の価格上昇を訴える声が多く寄せられています。また、中心商店街の空き地・疲弊化はさらに進んでおりますが、中心部にある市所有の広い空き地では、現在夏のイベント事業の活用等に利用されており、少しずつ活気づいてきています。お盆商戦を含む次期見通しはあまりよくない予想となっており、厳しい状態を強いられています。設備投資については、前期同様、依然慎重な動きが続いています。

■部会別の動向

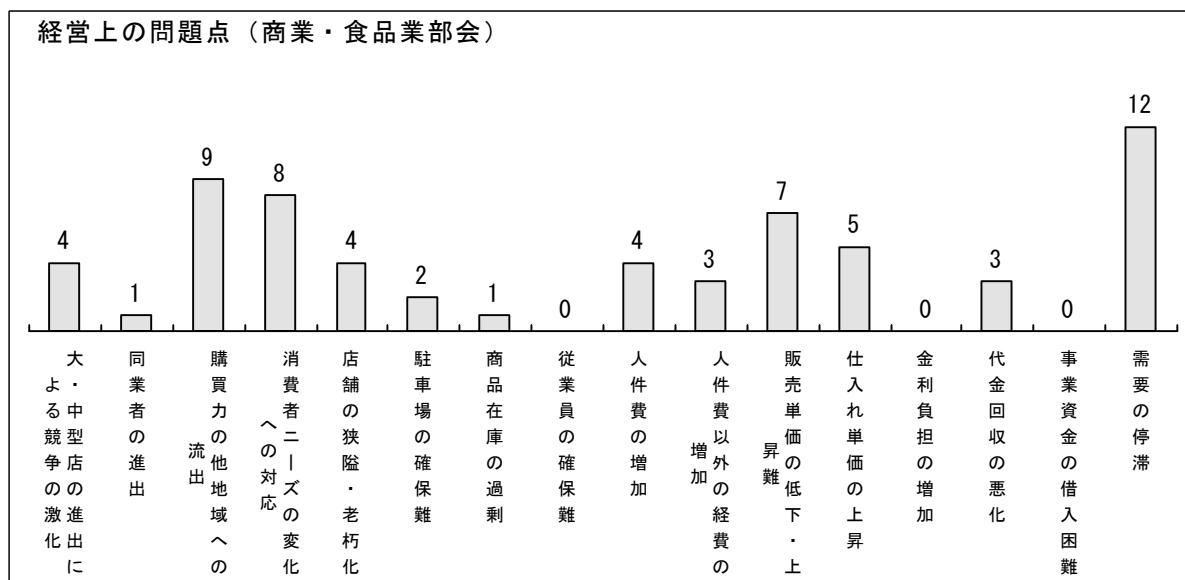
【商業・食品業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比） $\Delta 55.0$ （前年 DI 値 $\Delta 26.3$ 、来期見通し $\Delta 45.0$ ）〕

業況 DI 値（前年同期比）は、非常に厳しい状況で推移しています。大震災後の業況指数と比較してもさらに悪化しているという業況指数となり、買い物意欲の低下が見えてきます。次期の見通しもマイナス 45.0 とお盆商戦も先の見通しが立たないという状況のようです。

経営上の問題点としては「需要の停滞」「消費者ニーズの変化への対応」「購買力の他地域への流出」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・ ネットショップによる客の減少。個人経営者の減少で協会の活動が維持出来なくなっている。（小売）
- ・ 消費者ニーズの変化に対して、打つ手がない（小売）
- ・ 需要の停滞が一番の問題（小売）
- ・ 従業員の確保。特に夜間が難しい。（小売）



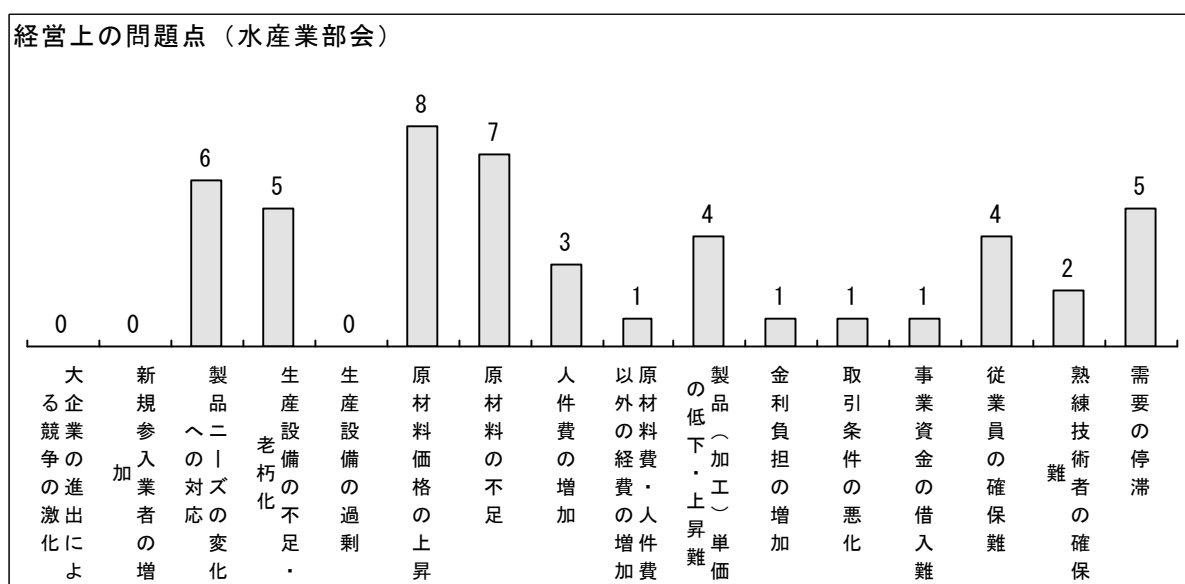
【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）6.3（前年DI値△42.9、来期見通し18.8）〕

業況判断DI値（前年同期比）は大幅な業況改善となっております。底曳き底建て漁が順調であり、最盛期をむかえる来期見通しについては、18.8ポイントとこちらも改善の期待を持った数字となっております。ロシアからの規制でカニの輸入が非常に少ない状況が続いており、原魚不足状態・原料価格高騰となっているようです。6月頃から本格操業に入ったホタテについては今のところ貝毒も出しておらず順調な滑り出しであるといえます。

経営上の問題点としては「原材料価格の上昇」「原材料の不足」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・水産業界の援助等のシステムを強化して欲しい。（水産加工）
- ・売上の減少が続いており、歯止めがかからない。（水産加工）
- ・原料不足で動きが取れない状態。このまま不足が続くと先が見えなくなる。原料価格がどんどん高くなってきていても、合わせ価格を上げられないので大変です。（水産加工）



【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△42.9（前年DI値△44.4、来期見通し△42.9）〕

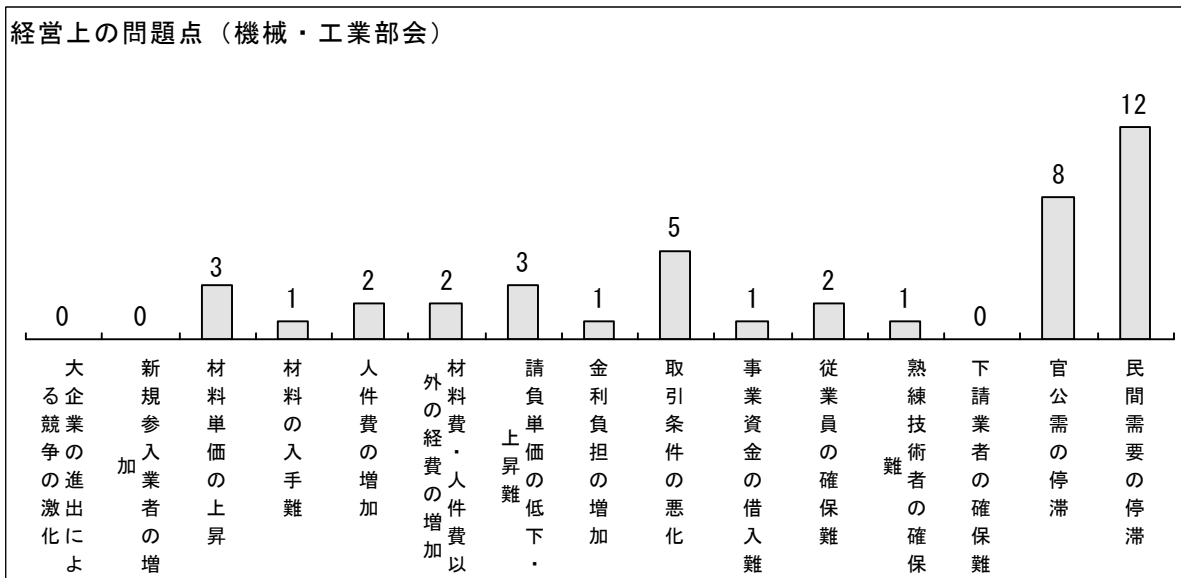
業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値と比べほぼ横ばいで悪化状態が続いている結果となりました。その要因としては、エコカー補助金の終了が近づいたものの、新車販売に結び

つかなかったことや、景気の低迷が影響して車の修理買い換えなども手控えられている状況のようです。次期見通しの業況判断も悪化状態が続くとの予想であり、なかなか回復が見込めません。また、お客様からの安い中古車調達注文はあるが、今までのエコカー補助金の制度で新車購入時に所有車を廃車にすることが補助金をもらえる条件だったため、せっかく中古でも十分に走れる車がすべて廃車となり、なおかつ大震災の影響で東北地方での中古車購入およびトラックや建設作業車が手に入りづらい状況であると聞いています。

経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「官公需の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・技術者の確保と育成（機械修理）
- ・為替（製造）
- ・熟練技術者の確保、安定した仕事量、工場・設備等の老朽化（鉄工）



【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 36.8$ （前年DI値 $\Delta 37.5$ 、来期見通し $\Delta 10.5$ ）〕

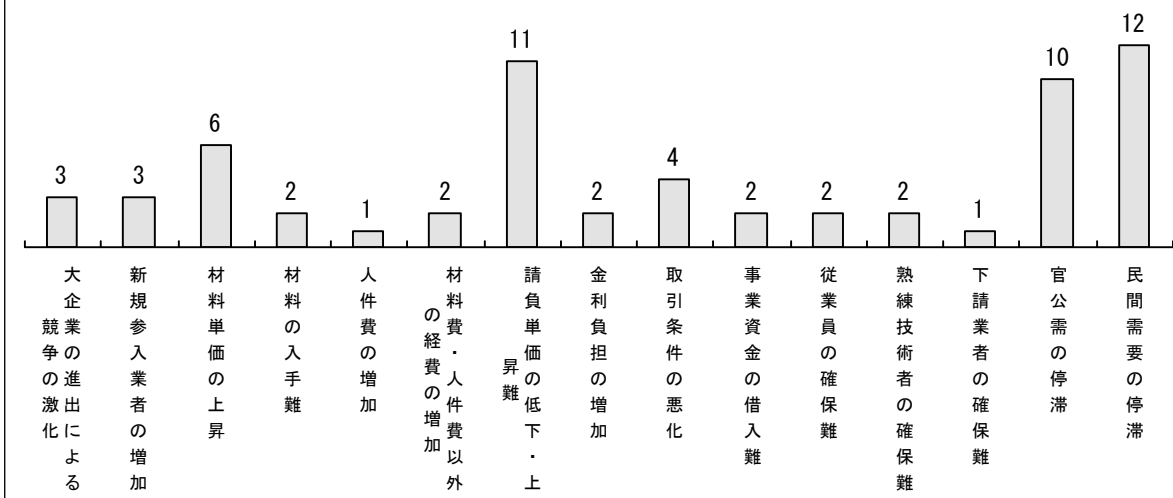
業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値と比べほぼ横ばいの悪化状態です。これから本格的な繁忙期に入る予定ですが、公共工事の減少等大きな回復は見込めないものの、夏場で忙しい時期に業況回復の期待を数字に表しているのだと思います。

経営上の問題点としては「請負単価の低下・上昇難」「民間需要の停滞」「官公需の停滞」を訴える声が多い。

《業界の問題点等》

- ・大手ハウスメーカー、他方の建築業者に押され気味で建設業の営業力の強化の必要性を期待する。紋別市民の昔型の恩義、人情的な事では、新築リフォーム工事は取れない。紋別商工会議所のバックアップの必要あり。（例として、遠軽町のプレミアム建設券発行の経済効果など？）（建設）

経営上の問題点（建設業部会）



【観光・サービス・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 4.3$ （前年DI値 $\Delta 47.8$ 、来期見通し $\Delta 30.4$ ）〕

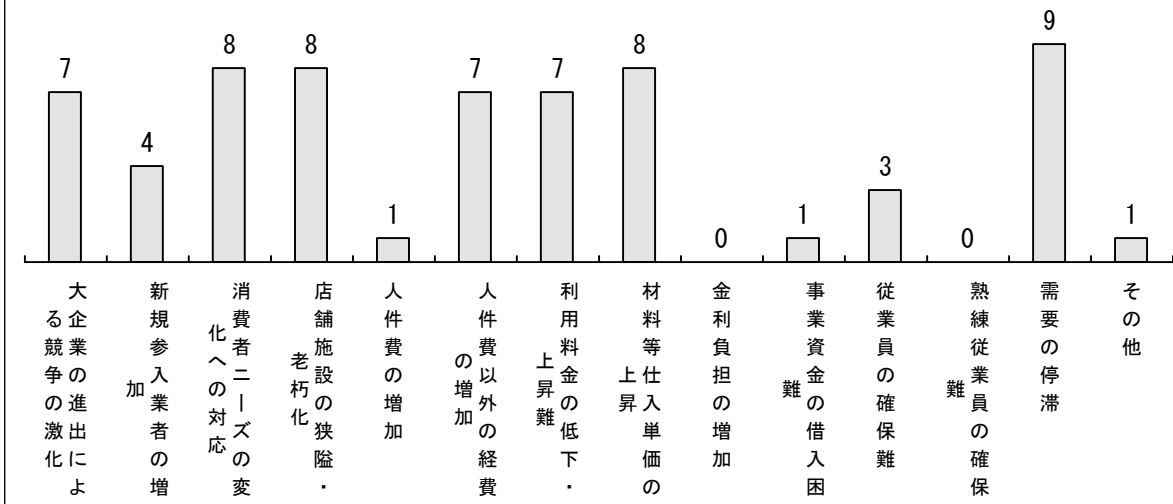
業況判断DI値（前年同期比）は前年DI値よりも改善されています。この数字は昨年の大震災の直後の数字との比較であり、改善されているものの大幅なものとははいかないようです。観光シーズン到来で、昨年大震災の影響があった外国人観光客が戻りつつあり、少しずつですが飲食業も業況回復傾向にあると聞いております。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」「材料等仕入れ単価の上昇」「店舗施設等の狭隘・老朽化」「消費者ニーズの変化への対応」を訴える声が多い。

《業界の問題点等》

- ・消費増税による消費の停滞が不安。又、その分を価格に転嫁出来るか不安。噂の大企業の進出による売上減への対策。（飲食業）
- ・市民会館などをもっと活用する（コンサート、お笑い等）ある程度 Big なゲストを迎える。（飲食業）
- ・①仕入価格の増加（粗利の減少）5%位道産米、地場産の商品の高値での推移（カニ、ホタテ、野菜）。②石油製品、プロパンガス等の価格上昇による車両費、光熱費の上昇。③観光客、釣り客等の増加を期待。（飲食業）
- ・安売り店舗の増加による売上、客数の減少。様々な企業努力により対応出来た。一部の企業、店舗のみが生き残る一極集中状態。（理美容業）

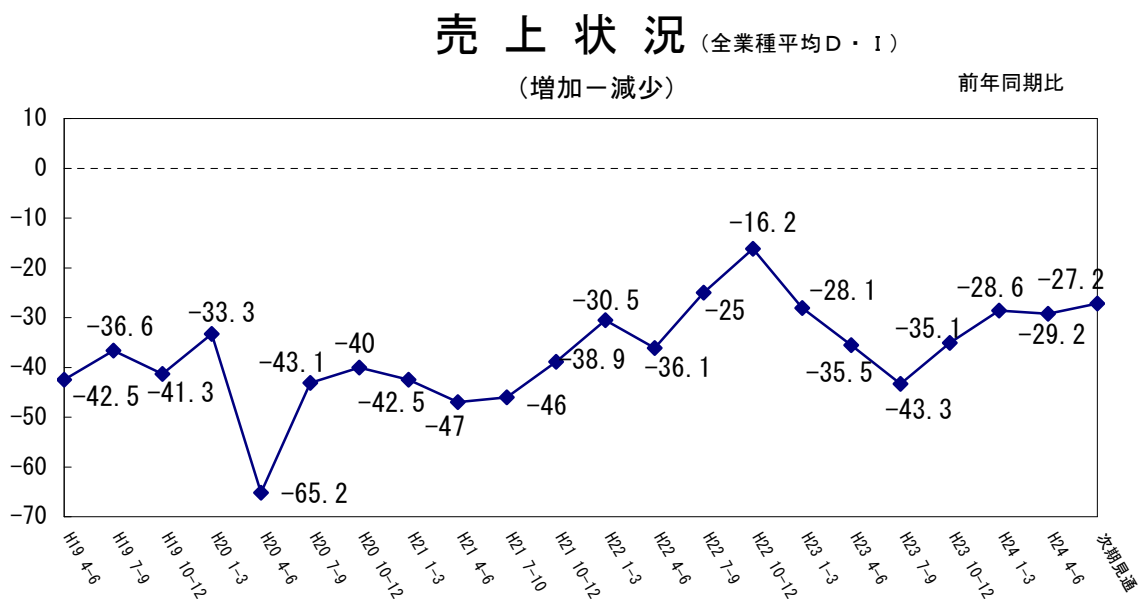
経営上の問題点（観光・サービス業部会）



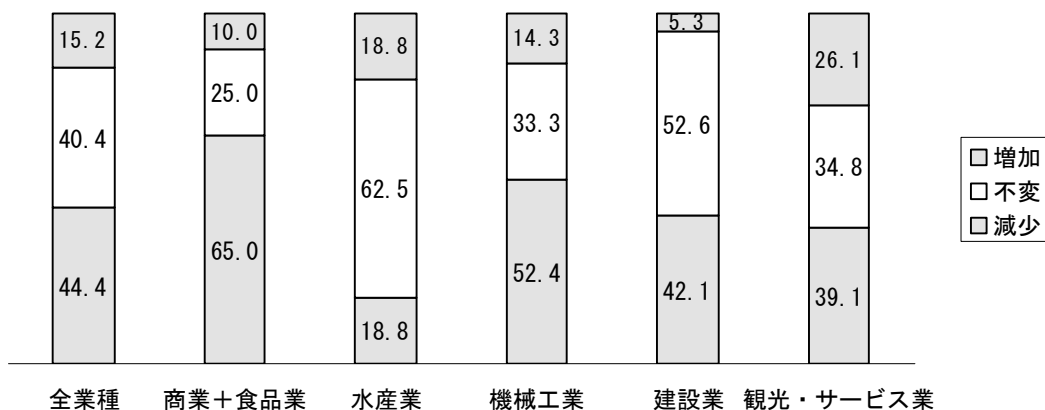
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 23 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の売上高）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値△29.2〔前年DI値（平成23年4～6月期△35.5）より6.3ポイントプラス〕

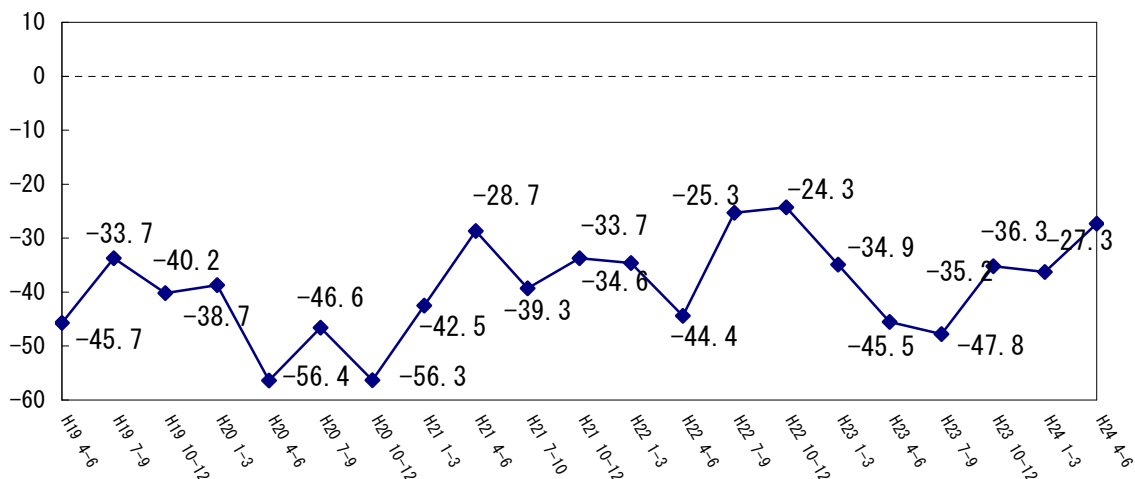
〔部会別DI値〕
 商業・食品業〔前年△26.3→△55.0〕、水産業〔前年△42.9→△0.0〕
 機械工業〔前年△44.4→△38.1〕、建設業〔前年△37.5→△36.8〕
 観光・サービス業〔前年△47.8→△13.0〕

(2) 今期の採算

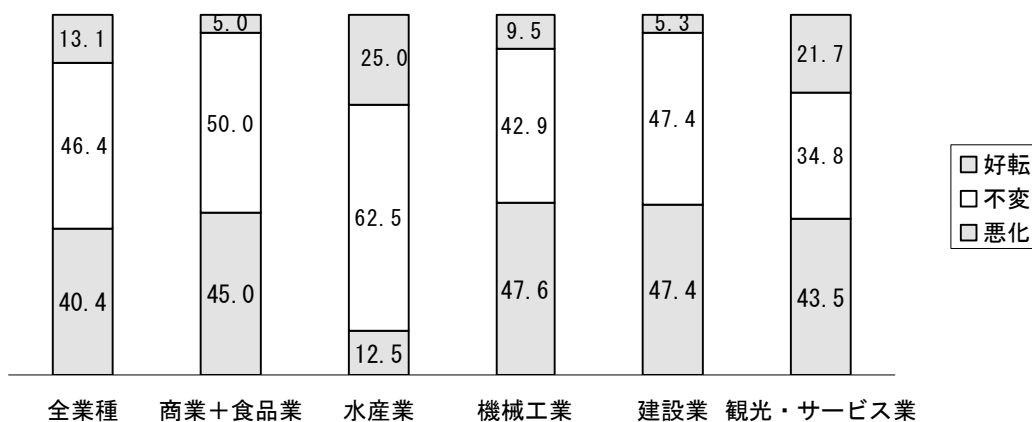
【前年同期比】（平成 23 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の採算水準）

採算推移（全業種平均 D・I） （好転－悪化）

前年同期比



今期の採算（前年同期比）



全業種平均で DI 値 $\Delta 27.3$ [前年 DI 値（平成 23 年 4～6 月期 $\Delta 45.5$ ）より 18.2 ポイントプラス]

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前年 $\Delta 21.1 \rightarrow \Delta 40.0$]、水産業 [前年 $\Delta 64.3 \rightarrow 12.5$]
 機械工業 [前年 $\Delta 27.8 \rightarrow \Delta 38.1$]、建設業 [前年 $\Delta 56.3 \rightarrow \Delta 42.1$]
 観光・サービス業 [前年 $\Delta 60.9 \rightarrow \Delta 21.7$]

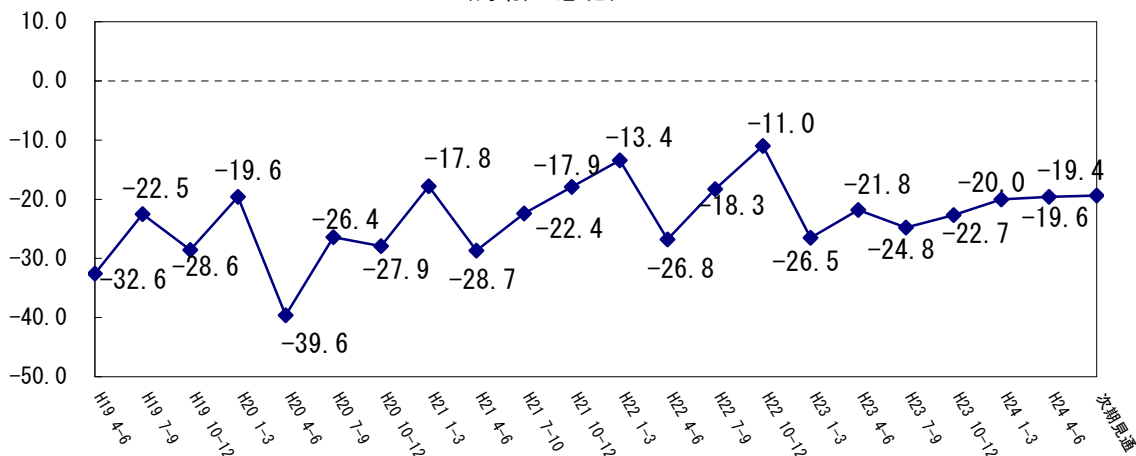
(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 23 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の資金繰り）

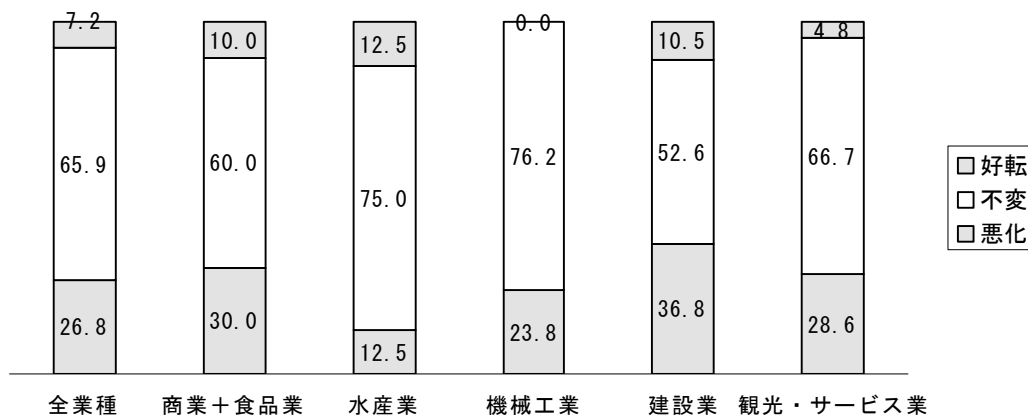
今期の資金繰り （全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



今期の資金繰り（前年同期比）



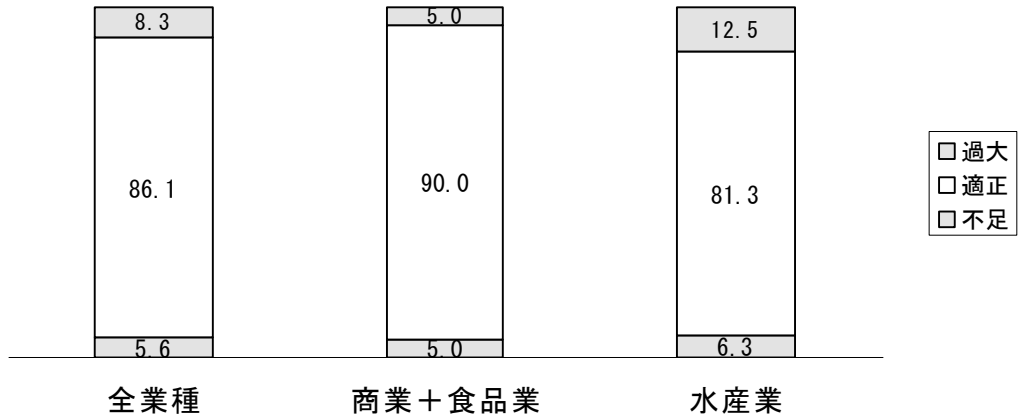
全業種平均でDI値△19.6〔前年DI値（平成 23 年 4～6 月期△21.8）より 2.2 ポイントプラス〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年△30.0→△ 5.3〕、水産業〔前年 0.0→△21.4〕
 機械工業〔前年△26.3→△17.6〕、建設業〔前年△26.3→△26.7〕
 観光・サービス業〔前年△19.0→△36.4〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 23 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



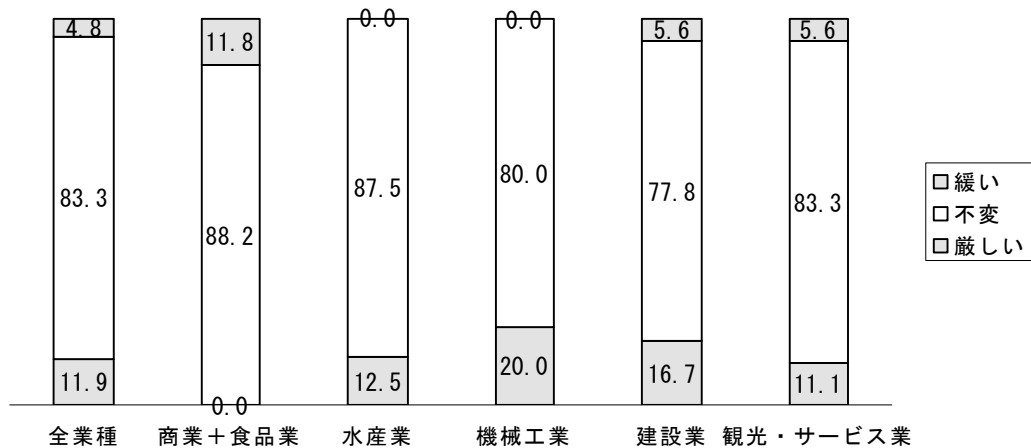
全業種平均でDI値2.7〔前年DI値（平成23年4～6月期△15.2）より17.9ポイント在庫増加〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年+5.3→0.0〕、水産業〔前年△42.9→6.3〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 23 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

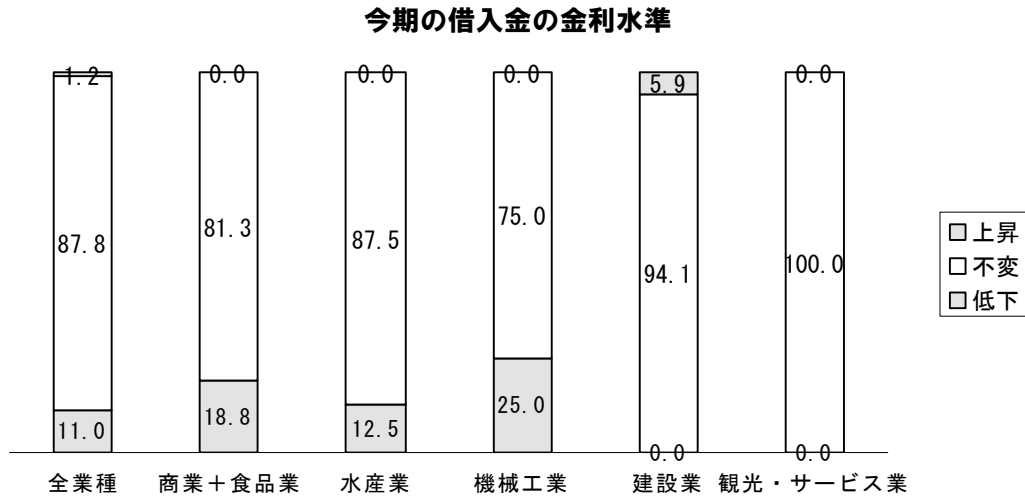
今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で△7.1ポイント。商業食品業11.8 水産業△12.5 機械工業△20.0 建設業△11.1 観光サービス業△5.6。

(6) 今期の借入金の金利水準

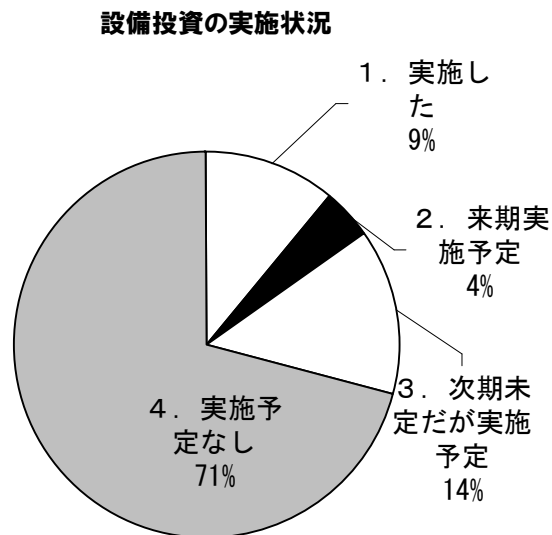
【前年同期比】（平成 23 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で $\Delta 9.8$ ポイント。商業食品業 $\Delta 18.8$ 水産業 $\Delta 12.5$ 機械工業 $\Delta 25.0$ 建設業 5.9 観光サービス業 0.0。

(7) 設備投資の実施状況

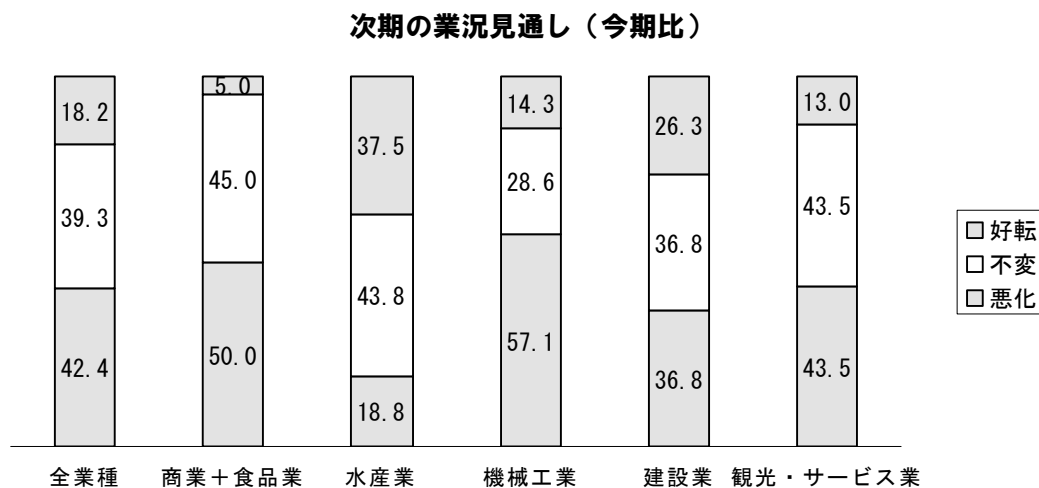
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

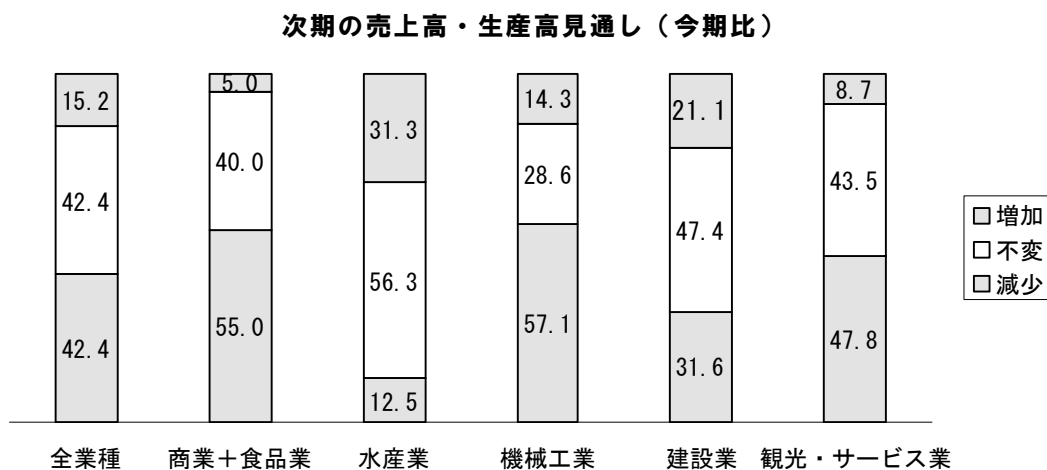
【今期比】（平成 24 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値 $\Delta 24.2$ [今期の業況（前年同期比 $\Delta 27.2$ ）より 3.0 ポイント回復の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 24 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

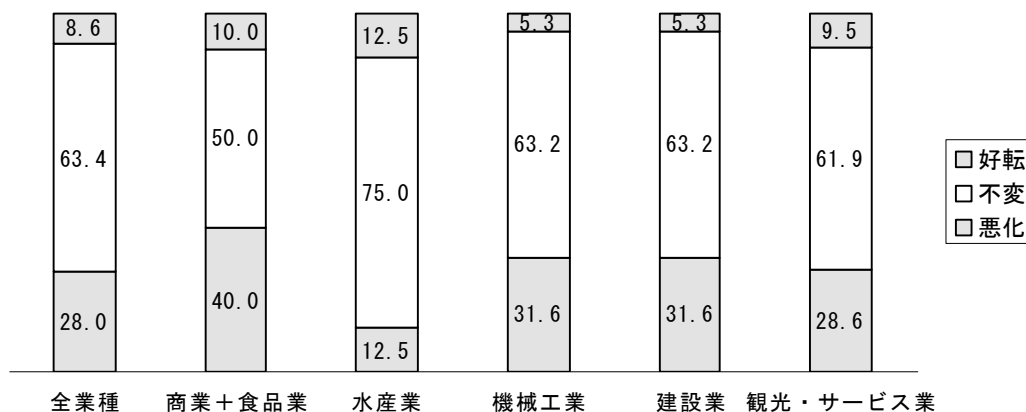


全業種平均 DI 値 $\Delta 27.2$ [今期の売上高・生産高（前年同期比 $\Delta 29.2$ ）より 2.0 ポイント改善の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 24 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 $\Delta 19.4$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 19.6$ ）より 0.2 ポイント改善の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	$\Delta 27.2$	$\Delta 55.0$	6.3	$\Delta 42.9$	$\Delta 36.8$	$\Delta 4.3$
	来期見通し	$\Delta 24.2$	$\Delta 45.0$	18.8	$\Delta 42.9$	$\Delta 10.5$	$\Delta 30.4$
売上 D・I	今期実績	$\Delta 29.2$	$\Delta 55.0$	0.0	$\Delta 38.1$	$\Delta 36.8$	$\Delta 13.0$
	来期見通し	$\Delta 27.2$	$\Delta 50.0$	18.8	$\Delta 42.9$	$\Delta 10.5$	$\Delta 39.1$
在庫 D・I	今期実績	2.7	0.0	6.3	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	$\Delta 27.3$	$\Delta 40.0$	12.5	$\Delta 38.1$	$\Delta 42.1$	$\Delta 21.7$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	$\Delta 19.6$	$\Delta 20.0$	0.0	$\Delta 23.8$	$\Delta 26.3$	$\Delta 23.8$
	来期見通し	$\Delta 19.4$	$\Delta 30.0$	0.0	$\Delta 26.3$	$\Delta 26.3$	$\Delta 19.0$
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	$\Delta 7.1$	11.8	$\Delta 12.5$	$\Delta 20.0$	$\Delta 11.1$	$\Delta 5.6$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	$\Delta 9.8$	$\Delta 18.8$	$\Delta 12.5$	$\Delta 25.0$	5.9	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。